

放射線科

放射線科は、画像診断および interventional radiology (IVR) に関与し、あらゆる科と連携している。得られた画像について、専門家の立場から情報提供することは、質の高い診断には必要不可欠であり、これら画像診断の基礎を習得することは、将来進む科を問わず有益なものとなる。また、患者の肉体的・精神的負担軽減に寄与するインターベンショナルラジオロジー (IVR) や放射線治療等の低侵襲性治療の基本的知識を得ることができる。

放射線科：選択研修

指導医：放射線科部長、放射線科医長、指導医の資格のある医員

上級医：臨床経験が 8 年以上あるが指導医養成講習会未受講の放射線科医師、および臨床経験 7 年以下の放射線科医師

指導者：診療放射線部技師長、副診療放射線技師長、主任診療放射線技師、放射線治療専従看護師

●一般目標 (GIO)

患者さんに対する全人的医療を実践するために、日常臨床における科学的知識に基づく画像診断や放射線治療の実践を理解し、放射線防護と安全管理の知識を習得する。

●行動目標 (SB0s)

1. CT、MRI 検査、超音波検査の原理や方法、適応などを理解できる。
2. 撮像された単純写真、CT、MRI について、代表的な疾患の画像所見を理解できる。また比較的容易な common disease の画像診断ができる。
3. 造影剤の適応と投与方法及び副作用と対処方法の知識を習得できる。
4. IVR (インターベンショナル・ラジオロジー) の適応、基本手技、合併症などを理解でき、実際の IVR 手技に参加することができる。
5. 放射線治療(外部照射、密封小線源治療など)の特徴と実際を説明できる。

●方略

1. 上級医・指導医の指導のもと、主に単純写真、CT、MRI の読影を実施し、結果を解釈する。
2. 指導医とともに放射線治療外来の患者の診察や放射線治療計画を学び、治療中および治療後の経過を経験する。
3. 上級医・指導医・臨床放射線技師の指導のもと、放射線の生物作用、物理作用および放射線防護と安全管理を理解する。
4. 興味がある分野について、画像診断を中心としたケースレポートを作成し、提出または放射線科カンファレンスで発表する。

5. 緊急疾患（主に急性腹症）の超音波検査が入った場合、指導医の手技を見学し、所見を学ぶ。
6. IVR 施行時は、見学あるいは上級医・指導医の指導のもと、基本的手技（穿刺・圧迫・消毒など）を行う。
7. 放射線治療専門医や治療専門放射線技師の指導のもと、放射線治療計画や密封小線源治療手技の補助を行う。
8. カンファレンス 放射線診断カンファレンス（毎週）や緩和ケアカンファレンス（毎週）に参加する。
呼吸器カンファレンス（毎週）、カンサーボード（2回/月）なども希望に応じて参加する。

●週間スケジュール（例）

月	火	水	木	金
読影	読影	読影	読影（緊急超音波検査） 12:00～ 画像カンファ （毎週）	読影
13:30～緩和カンファレンス 放射線治療 （診察・治療計画）	読影	密封小線源治療（手術室）	IVR（血管造影室） 17:00～呼吸器カンファレンス	読影 16:45～カンサーボード

* 検査・治療予定によって適宜変動あり

● 評価（EV）

1. 指導医が病院共通の研修評価確認表に評価を記載する。
2. レポート・症例提示

※ 参考

< 主要な研修内容 >

1. 胸部 X-P など単純 X 線検査の正常 X 線解剖像を学び、典型的な異常所見の読影と鑑別診断ができるようにする。
2. X 線 CT スキャン検査の目的と特徴を理解し、正常解剖像を学ぶ。
3. 超音波検査の目的と特徴を理解し、正常解剖像を学ぶ。
4. MRI 検査の目的と特徴を理解し、正常解剖像を学ぶ。

5. 腹部血管造影検査の目的と特徴を理解し、手技や正常解剖像を学ぶ。
6. 各種造影剤の特徴と副作用を理解し、適切な投与量・投与方法を学ぶ。
7. 検査に伴う医療被曝を学び、日常診療において医療被曝を軽減できるようにする。
8. がん治療における放射線治療の役割を学び、集学的治療の中においてどのような目的（根治、予防、緩和など）で放射線治療が適応となるかを理解する。
9. 外照射・密封小線源治療について、治療の特徴や流れ、副作用について理解し、上級医とともに治療計画を立てる。